

# 歴史と自然に思いをはせる道・ 猿留山道



小川 浩一郎 (おがわ こういちろう)  
 (株)ジオ (THE-O) 代表取締役

1980年札幌市生まれ。2001年エコ・ネットワーク代表代行、13年北海道科学大学客員准教授。札幌市南区常盤で育つ。『フットパス』をキーワードに市内、道内、国内で普及活動、ウォークイベントを実施し、ワールドウォーカーとして世界の「フットパス」を歩いている。「歩く」ことを通じて自然あふれる都市・札幌を観光客へ伝えるべく奮闘中。著書に「北海道フットパスガイド①」「北海道フットパスガイド②」。

## 北海道にも多くある「歴史の道」

えりも町は海産物などが魅力的な町です。訪れる度にツブやサケ、もっと珍しく美味しい食材に舌鼓を打っています。札幌市内などの飲食店や寿司屋では「えりも産〇〇」というネタやメニューをよく見かけ、そしてその海産物がブランド化されています。風が強い襟裳岬ではアザラシ観察や強風を体験できる観光・学習施設もあります。

北海道外には歴史の道が多く存在するのはご存知のとおりです。東海道、熊野古道、四国お遍路など歩くことが好きな方であれば片手くらいはすぐに挙がるはずでしょう。街道、古道など昔からの生活道が各地に溢れています。しかし北海道内の場合はどうでしょうか。フットパスのお話をする時によく参加者に聞くのですが「歴史の道を挙げてください」と尋ねてもひとつも出ない場合がほとんどです。ところが北海道にも多くの「歴史の道」＝「山道」と呼ばれる道があります。「やまみち」ではなく「さんどう」と読みます。

## 北海道最古の山道のひとつ「猿留山道」

えりも町にあるのは「猿留山道」と呼ばれる歩く道です。1800年に伊能忠敬が測量し、北海道の名付け親である松浦武四郎も踏破した北海道最古の山道のひとつです。今でも資料が残されており、当時をうかがい知ることができます。これほど前からの「歩く道（あえてフットパスとは呼びません）」は北海道では山道のみならず最古の部類の今でも歩ける「歩く道」と言ってもいいでしょう。他にも北海道遺産になっている増毛山道、濃曇山道、様似山道などが有名な山道として現在も歩くことができます。

では山道とは何でしょうか。実際に開削されたのは1799（寛政11）年。当時はロシアが南下政策を始め、北海道近海にもたびたび姿を現わすようになっていました。北方警備を強化する必要が生じたのですが、当時の北海道の交通



前半エリアは心地よい牧草地の風景が広がる



手段は船の場合が多く、「道」があまり整備されていませんでした。これでは有事の際に時化など天候次第で情報を迅速に伝えることができないため、江戸幕府が命じて開削した官製事業だったわけです。この第1号がえりも町にある猿留山道です。完成後は伊能忠敬や松浦武四郎のみならず多くの旅行者が歩き、様々な資料を残しています。これらは今でも「郷土資料館「ほろいずみ」・水産の館」(☎01466-2-2410)で見ることができます。

### 姿を消した猿留山道を復元

山道とフットパスは似て非なるものですが、親和性は高いものです。歩くことを楽しむ道がフットパスであるならば、歴史や自然に思いをはせながら歩ける猿留山道は、まさに北海道最古のひとつのフットパスと言っても過言ではないでしょう。

しかしこの猿留山道の一部は一度、姿を消してしまいました。国道や町道などが整備される時代に入ると人や馬、駕籠しか通れない「山道」は不要なものになっていったのかも知れません。使われなくなってしまった道は荒れ、草木が生い茂るようになってしまいました。しかしここから猿留山道の特異で素晴らしいポイントのひとつなのです。姿を消してしまった猿留山道をこのままにしておくのは惜しいとえりも町の有志の方々が行動に移します。2003年から猿留山道を復元する「猿留山道復元ボランティア事業」が始まりました。

実は私たちも当時、少しお手伝いをしました。えりも町民のみならず札幌からボランティアの有志をお連れし、一緒になって復元のための草刈りや道の整備を少しずつ行いました。10年ほどかけて事業は終了し、その間えりも町長を始めとした町民や近隣地域の住民、札幌市などの都市部の有志も参加した協働事業となりました。残存区間が歩きやすくなり、現在では引き続き「猿留山道を歩く会」とし

て多くのウォーカーや自然、歴史愛好家から頼りにされています。

### 多くの見どころが詰まったフットパス

実際に歩くと「歴史の道がない」と思われていた北海道でも江戸時代にあった道を歩ける感動だけでなく、自然の中を存分に楽しみながら歩くことができます。前半部分では誰もが想像する「北海道らしい風景」の中を進むことができます。残っている牧草が風に吹かれて輝いている様は息を飲むほどです。山側にはこれから歩くであろう小さな山々を望め、もう一方には太平洋の絶景が広がっています。このルートはえりもフットパスの「大観望コース」にも続いています。こちらも絶景ですのでおすすめです。山道という割にアップダウンはそれほどではありませんが、いくつかの河川を渡る必要があります。しかし整備事業のお陰でとても歩きやすい道が続きます。そのまま進めば北海道の有名な製菓会社のCMにも登場したハート型の湖で知られる豊似湖に立ち寄ることができます。豊似湖手前の沼見峠からは秋の葉が落ちる時期にハート型の湖を望めます。また江戸時代に建立された石碑もあり、当時から利用されていた様子がうかがえます。何とんでも大自然の中に入り込むのでシカなどの野生動物や野鳥、植物との出会いも楽しめそうです。猿留山道を歩くには前述の資料館ホームページなどで位置図などをダウンロードできますが、道標もしっかり完備されている訳ではありません。イベント時でもしっかりとした装備で歩くことが望めます。

このように歴史と自然が“密”に融合した猿留山道を楽しむため、イベントに参加することをおすすめします。貴重な情報や動植物をこっそり見せてくれるかもしれませんので。有名な歌手が「えりもの春は何もない」と歌っていますが、実は多くの見どころが詰まった山道があり、これを歩くとえりもをさらに楽しむことができるでしょう。



江戸時代の石碑前で作業の無事を祈る



沼見峠から望む豊似湖